

# 平成25年度秋季企画展

## 長尾景春と鉢形城

鉢形城が歴史上に登場する確実な史料は、長尾景春が関東管領上杉頼定に対して叛いた「長尾景春の乱」を詳細に記した「太田道灌状」といわれています。

今回の秋季企画展は、プレ北条氏邦シリーズ第2弾として鉢形城を最初に築いたといわれる「長尾景春」をテーマにライバル太田道灌や長尾氏関連の資料等を展覧します。

### 1 長尾氏

長尾氏は、坂東八平氏の一つである鎌倉氏の一族で、平安時代末頃に相模国鎌倉郡長尾庄（現横浜市栄区長尾台町）を本拠とした景行（景弘とも伝わる）が、長尾氏を称したことから始まるとされています。

### 2 長尾景春

景春は、山内上杉氏の家宰であった景信の嫡子として嘉吉3年（1443）に生まれ、母は越後国府中長尾頼景の娘と言われています。景春に関する初見の史料は、文正2年（1467）に連歌師宗祇から「吾妻問答」と呼ばれる連歌論書の写しを「長尾孫四郎殿」へ

与えたとの奥書になります。そのころ、景春は父景信とともに五十子陣に滞在しており、文明3年（1471）の下野国侵攻に一役買っています。

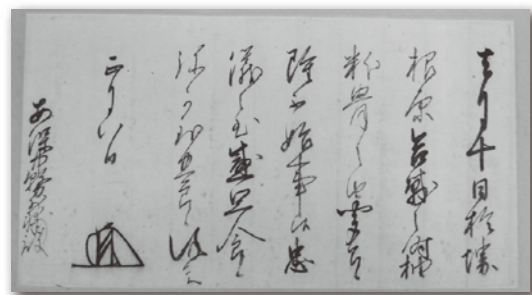
父景信死去後、白井長尾家の家督を継承した景春は、上杉氏家宰も継承するものと思いましたが、上杉頼定はそれを認めず、景春の叔父に当たり、武蔵国守護代であった惣社長尾忠景を任命します。これは、年若の頼定の存ではなく、宿老寺尾入道・海野佐渡守との協議の結果であり、また忠景に至っては、山内上杉氏家中の長老的な存在で、白井長尾氏の前の家宰は、惣社長尾氏であったことからすると、一般的には妥当と思われる。

### ・ 乱の経緯（鉢形城居城のころ）

文明9年正月に景春は五十子陣を襲撃し、頼定・扇谷上杉定正・長尾忠景らは上野国に退去し、武・上・相の三国の景春党は各地で蜂起しました。道灌は、まず在城する江戸城と河越城を分断する位置にいる豊島泰経らの練馬・石神井両城の攻略を図り、4月13日に江古田原で豊島氏方と戦い、28日にはほぼ武蔵南部・相模を平定しました。

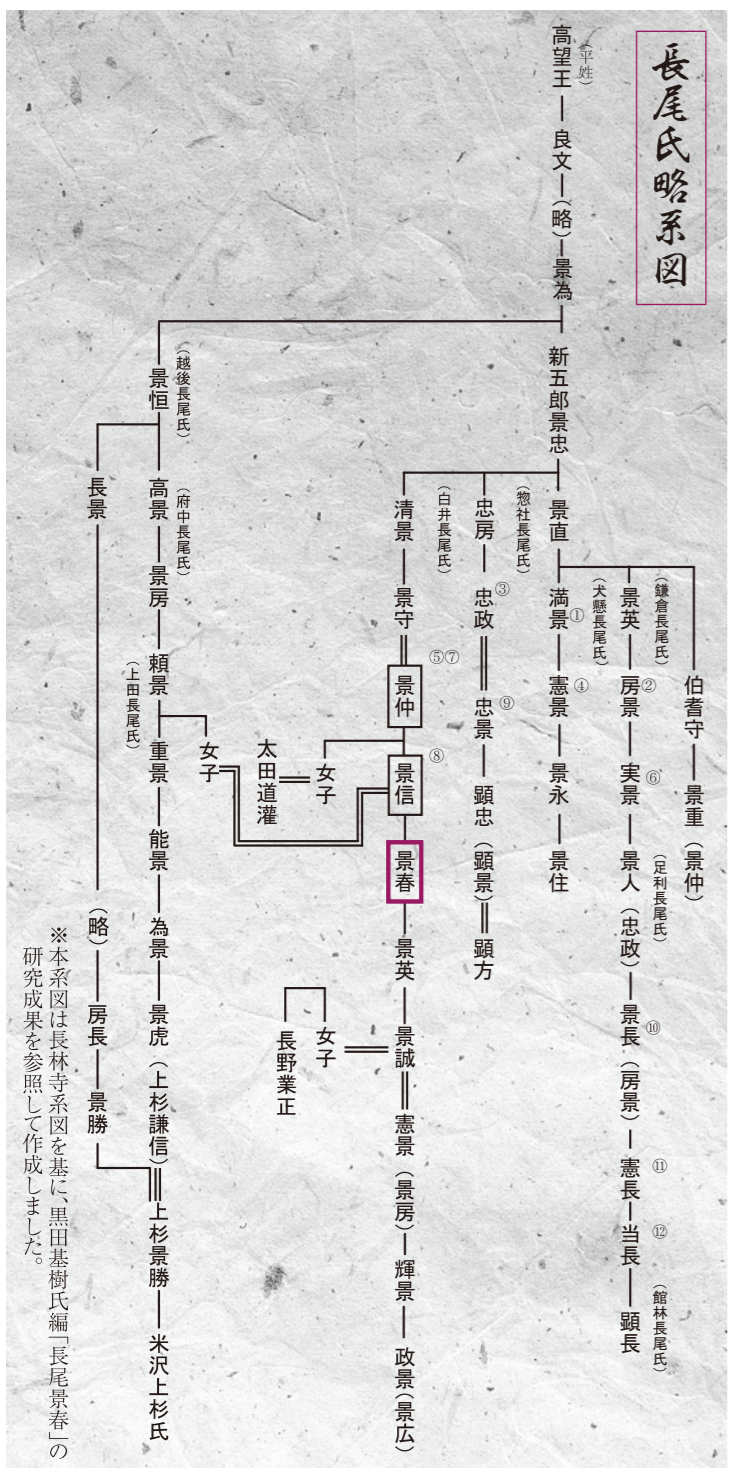
5月13日、道灌は両上杉氏を五十子陣に帰陣させ、これを受けた景春は上州勢とともに五十子・梅沢（本庄市）に布陣しました。14日、道灌は鉢形城と五十子の間の次郎丸に進軍し、出撃してきた景春軍を用土原（寄居町用土）で打ち破りました。景春は鉢形城に籠城し、両上杉方に包囲されました。

この危機的な状況に、古河公方足利成氏が上野国瀧に出陣し、上杉方と広馬場（榛東村）で対陣することとなり、



足利成氏安堵状(県立文書館蔵)  
境根原合戦で活躍した安保氏康にあてた安堵状

### 長尾氏略系図



※本系図は長林寺系図を基に黒田基樹氏編「長尾景春」の研究成果を参照して作成しました。

一時的に景春は命拾いをしました。やがて頼定は成氏と幕府の和睦を上杉氏が調停することを条件に和睦することとなりました。

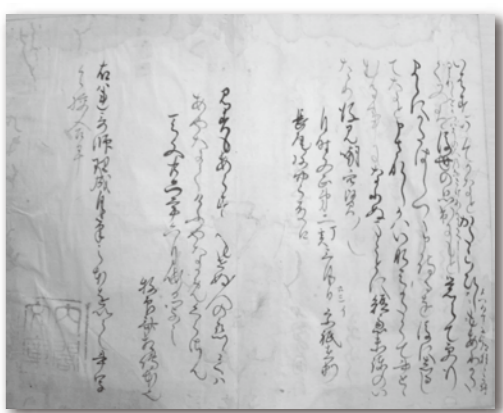
景春党は和睦に納得せず、各地で反乱を続けました。同10年7月上旬、太田道灌は武蔵・相模の兵とともに河越城を出陣し、17日に荒川を越え鉢形城と成田陣の間に布陣しました。成氏は景春に見切りをつけたため、18日未明に景春の陣所を攻立て、景春は秩父へ落ち延び、成氏は古河へと帰陣しました。

この陣所が鉢形城を指しているかどうかは「道灌状」では不明ですが、鉢形城が道灌側の手に落ちたことは間違いないようです。

### ・ 乱の経緯（鉢形城落城後）

扇谷上杉定正・太田道灌らは、山内上杉頼定を上野国から迎えました。頼定の在所について議論があったようですが、道灌が鉢形城を「防備と武蔵・上野両国を治めるのに適した場所」という理由で推薦したため、最終的には鉢形城に決まり、上杉方の本陣となりました。

8月になると道灌は、景春の有力な与党であった下総千葉孝胤（輔胤の嫡子）は12月10日、出陣してきた道灌・自胤軍とともに境根原（千葉県柏市）で合戦となりますが破れてしまいます。



吾妻問答

### 3 長尾景春の乱

#### ・ 背景

長尾景春の乱の経緯については「太田道灌状」が詳細に伝えています。そもそも家宰は、上杉氏の家政と家務を取り仕切ることから、さまざまな権益を有し、白井長尾氏の被官（家人）・傍輩（同輩）らはその利害関係にあり、景春が家宰でなくなることは彼らにとっても死活問題でした。景春に同調する者は、武蔵国・上野国・相模国の中の忠景に対して不満を抱いている被官・傍輩で、その数は2、3千人にも及びました（松陰私語）。

文明6年（1476）景春は、一党とともに五十子陣への通路を封鎖したため、上杉方は騒然となりました。その状況を打開するため、扇谷上杉氏の家宰であった太田道灌が呼び出され、五十子陣に参陣することとなりました。ちなみに、道灌は景春からすると父



長井城跡(熊谷市西城)  
景春は長井六郎とともにここで上杉軍と戦った



太田道灌状部分(國學院大學図書館蔵)  
この中で、道灌は「此の時天子の御旗を差し懸け御退治有るべき旨申し候處」と早急な処置を主家に訴えていたことが分かる

景信の妹の夫、つまり叔父に当たります。景春は使者を派遣し、道灌の出陣を思い止ませようとしたが、道灌はそのまま進軍を続けました。扇谷上杉氏の宿老上田上野介が宿営していた小河（小川町）に道灌が着陣すると、景春自ら飯塚（寄居町桜沢）陣から訪れ、頼定とその実兄である越後国守護上杉定昌を討ち取る計画を打ち明け、その計画に支障を来すから参陣しないよう要請しました。道灌はその要請を断り、五十子に着陣し、謀反の計画を頼定らに報告しましたが、頼定からは何の音沙汰もありませんでした。